わたしの実践報告　鉄棒

田中　敦子
（田原小）

1. はじめに

本校は全校生徒113人。学年が20人に満たないような学校で、子どもたちは人としのぎ合う経験がない。男女比が3：1という学年がいくつかあり、体育に関しては悩みとなっている。本校においての合体は、人数がりなくてゲームのおもしろさが十分に味わえないが由の2学年、合同の時間であった。

2. 何をこの子らと共に学ぼうか

4年からの持ち上がりの学年。昨年の後半、第二次性徴について学習した。お互いの理解がし深まっている。そこで、同じレベルでスタートできる運動はないかと思い、選んだのが「鉄棒表現運動」だった。子どもたちが決めた集団遊びの中に、"木曜日　のぼり棒・鉄棒"とあるのも心強かった。

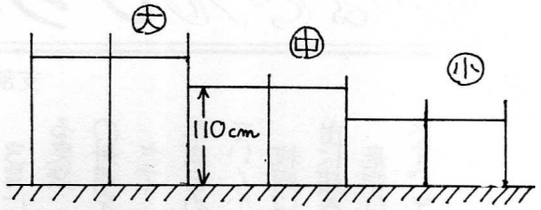
3. 授業を始める

鉄棒から連想することを聞いてみると、

1. さか上がり……40%
2. 「また、鉄棒やらなあかんのか」……24%
3. 別に何も思われない……17%
4. 「いやだなあ」……10%
5. 「ならばなあかん」……7%
6. 前まわり……2%　という結果。

私は3が気にかかった。それなら、うんと楽しくしようと『オリジナル技』を中心にすることにした。

鉄棒数の不足に悩んだが、これも全体を1個の鉄棒と見ることで解決した。



これで1個　（見方が広がる）

呼び名もよく使う高鉄棒とせず、大中小とした。これは同じ前まわりでも、低い所でするとずい分丸まった感じだが、高い所だとグンとスピードも出せて思い切れる。つまり大きい感じと子どもたちが気がついたからだ。

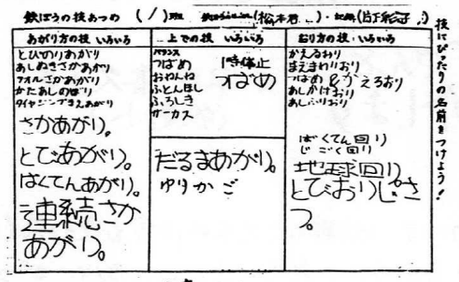
4. 子どもたちの様子

進んでいく中で次々と『オリジナル技』が生まれ伝わっていった。バック転あがり・連続さかあがり・タオルあがり・だるまだるま・へへへいへい・ふろしき…etc.（表1）

このあたりまでくると個人の楽しさはずい分高まったようだ。教え合いの中で逆あがりのできなかった女子が2人できるようになったのも嬉しかった。

自信のある子どもは、小→中→大と進み、

棒　すべしゃる．大・中・小



鉄ぼうの技あっの（ノ）班　（松本君…）・（吉子紀子…）

技だけでなくたくさんの名前をつけよう！

あがり方の技 いろいろ	上での技 いろいろ	おりる方の技 いろいろ
とびのりあがり あしぬきさかあがり タオルさかあがり かたあしの乗り ダイヤジャンプ2あがり さかあがり。 とびあがり。 はくてんあがり。 連続さかあがり。	つばめ おやのしね ふとんほし ふろしき ザーカス 時体止 すべめ たるまあがり。 ゆりかご	かえるおり まえまわりおり つばめ乗り えろおり あしかけおり あしぶりおり はくてん回り じごく回り 地球回り とびおりしゃっ。

（表 1.）

並の子どもは、なんとか大にとりつき、中小へと移動していく。

大にあがれない子のために、ゴムタイヤをひきずって、ふみ切り板のようにし、そこでジャンプしてとびあがる技が生まれた。助走から始まり大を使ってのダイナミックなスタートとなった。

5. 大・中・小を使って技を考え、班で発表する

いよいよ組み立てを考える。私は4つの約束を出した。

① 自分で考えた技を使ってよい。
② 地面におりて、又技をつなげてもよい。
③ 地面におりて鉄棒を離し、またにぎって技をつなげてよい。
④ できない技は、友だちに補助してもらってよい。

（民衆社　体育の授業5・6年より）

2班の連続技

とびのり（小）→ うで立て後ろまわり（小）→ 鉄棒上

あるき → とびおり（中）→ 並あがり（中）→ ねけご（中）

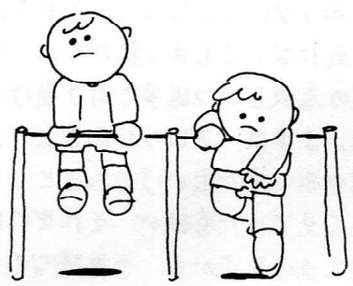
→ 前まわりおり（中）→ タイヤジャンプ（大）→ つばめ（大）

→ ぶたのまるやきおり（大）

4班の連続技

後ろとびのり（小）→ じごくまわり（小）→ さかあがり（中）

→ うでまわり（中）→ とびあがり（大）→ 前まわり（大）

6. これから

屋内に鉄棒がないので連日の雨がうらめしかったです。表1からもわかるように鉄棒上の技の中の回転技がとぼしい。ひき続き、足かけ後ろまわりを練習しています。